煙一筋も立たず

全工場作業中止

林立せる百の大煙突一も煤煙を吐くなし

周章狼狽せる當局

勞友會幹部其筋へ連行さる

五日午前六時八幡製鐵所本部前に集合せる職工は刻々其數を加へ一萬六千の職工に職夫人夫を加へ男女約三萬に達せり作業中止は製鐵所内全部の工場に及び東洋一と誇稱せる製鐵所の百に近き煙突も爲に一時に煙を絶ちたり製鐵所幹部は本部の事務所玄關に殺到せる職工の氣勢意外に大なるに驚き前日謝絶せる職工總代との會見を諾し嘆願書を受取り七日午後六時迄に回答すべき事を約せり職工總代より此報告を聞きた

八幡製鐵所同盟罷業は強硬手段時加給を本給に直すと其他數項の嘆願書を四日白仁長官宅に提出すると同時に代表八名を選びて中川次長に會見を求めしが謝絶せられしより之に憤慨せる勞友會職工約六百名を中堅として五日午前六時の交替時を機會に全部事務所前に集合鋼工場堂山機關工場等の職工を始め人夫職夫等之に加盟して喧囂を極め全部作業を中止せり、製鐵所は外部職工の暴動さんことを慮れて三天門を堅く鎖し多數の憲兵巡査守衛等警戒して内部と外部との交渉を全く斷絶し從つて内部の事情全く不明なるが警察部より警察部長出馬し來り附近各地警察署より亦多數應援隊を自動車にて急派し大警戒を加へ居れり（八幡來電）

職工の氣勢意外に大なるに驚き前日謝絶せる職工總代との會見を諾し嘆願書を受取り七日午後六時迄に回答すべき事を約せり職工總代より此報告を聞きたる本部前の職工團は喚呼しつゝ夫々各自の工場に引返し正午より就業の態を裝へるも凡ゆる機關は動かず滿足なる回答を得るまでは總同盟罷工を繼續するとされるものゝ如し、而して小倉、若松兩警察署より署長以下約百名の警官を引率し八幡署百餘名と合し一隊は市内に一隊は小倉憲兵隊より急派せる一箇分隊の憲兵と合し製鐵所内の要所々々に配置し物々しき警戒振を示し出張の本社員に對して警察署の樓上に昇るを拒み且勞友會本部前に於ては理由なくして私服巡査が本社記者を尾行し名刺を求むる等當局の血迷へる狀態一方ならず該運動の策源地と目さるゝ大日本勞友會に對しては大門町なる同會本部附近に多數警官を配備して監視をなしつゝありしが遂に五日午後一時三十分に至り署長の命なりと稱し同會幹部吉村眞澄、會長淺原健三、西田徳太郎、相原長三、森重某の五名を警察署に連行せり、而して製鐵所職工の運動は極めて秩序整然と行はれつゝあるが連行されたる勞友會幹部中の會長淺原健三、吉村理事の二名は公安を維持する理由の下に遂に歸宅を許されず右の外職工の集合を促せる勞友會員朝鮮人金榮文外二名は製鐵所内に留置されたり（八幡來電）

白仁長官の驚愕

大熔鑛爐の火を消されたとすれば回復容易にあらず

八幡製鐵所同盟罷業の報議會に傳はるや折柄分科會に出席中なる白仁製鐵所長官の驚愕一方ならず直に電報を製鐵所に發し別室に於て種々協議する所ありたるが長官は元來して語る

「始めたか困ったことになつた實は此程から穏かならぬ形勢で憂ひてゐた所だ彼等の

要求は

第一に八時間制を實行し夜業を廢止すること、第二給料三割增額のこと等である

が八時間制實施の如きは一般に大きな影響があり又給料三割增は民間會社と異り

豫算に

限りがあるので容易に解決さるべきものでない大熔鑛爐の火を滅したとすれはそれこそ大打撃である一箇月や二箇月で復舊されぬ、罷業の狀態以何に依つては自分は一先づ歸られねばならぬ云々斯くて分科會を終りたる後長官は山本農相、犬塚文官と鳩首種々善後策に就き協議する所ありたり（東京電話）